



今後は、市内のイベントの際に販売を予定しているそうです。

椿油ってスイーツにも合うんです！

ツバキとイチゴのふんわりロール

市花木「ツバキ」の油を使ったオリジナルロールケーキがこの春誕生しました。市を盛り上げたいとの思いでイベントなどの企画・運営を行っている市事業企画推進協議会が作成を提案し、シェアキッチンで活動するTMK キッチンサロンの河除さんが商品化。椿油は市民ボランティアグループe- やんが市内外で集めた種から絞った貴重な県産のものです。このケーキをきっかけに少しでも市花木であるツバキに興味を持つもらえた、という思いがこめられています。

物資の支えが心の支え

災害時における物資等の供給に関する協定

市と株式会社八幡は4月13日(月)に協定を締結しました。これは、地震や風水害などの大規模災害時に、物資の供給を円滑に実施することを目的とするもの。

締結式で栗市長は「避難所生活では物資の確保が何よりも安心につながる」と話し、株式会社八幡代表取締役社長の久保圭子氏は、「安心・安全な食品を地域の皆さんへ提供するのが使命。食のインフラを守っていきたい」と意気込みを語りました。災害時には米や飲料などの供給に協力いただきます。



愛犬の健康を守るために

狂犬病予防注射

4月5日(日)、6日(月)の2日間、市内5カ所で狂犬病の予防注射が行われました。犬を飼うときは、自治体への登録と毎年1回、狂犬病予防接種が義務付けられています。会場の一つであるにぎわいの里のいち カミーノでは、受付開始から次々と飼い主と犬が訪れ、獣医によって素早く注射が打たれていきました。今年接種を受けた犬数は292頭。大切な家族の一員である愛犬の健康を守るために、周囲へのマナーとして、忘れずに接種を受けましょう。



注射はあっという間に終わります。これで一年ばっちりだワン！

小さな美術館が完成したよ

廃材アートコンテスト

想像力と創造力を培う場所で子どもたちの可能性を引き出すことを目的として、市民活動団体の（一社）はぐネットが「おうちでできる“こどもミュージアム”廃材アートコンテスト」を開催しました。子どもたちが作る作品のテーマは、市民活動センターPRキャラクターのノバメちゃん。小学生アーティストから集まつたすてきな9点の作品で、カミーノに小さな美術館が完成しました。大賞にはガラポンを制作した大蔵和奏さんの作品が審査員の満場一致で選ばれました。



小学生の豊かな発想でバラエティに富んだ作品が並びました。

F まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 (☎ 227-6056)

吹き抜ける春風とともに

小中学校入学式

4月7日(火)、市内小中学校7校で入学式が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために参列者を減らすなど規模を縮小し、換気などを徹底しての開催。小学生563人、中学生527人が新たな学び舎の門をくぐりました。

野々市小学校では、泉紀恵校長が「大きな声で元気にあいさつをしてください。皆さんのが学校が大好きになってくれるとうれしいです」と新1年生を激励。その後、栗市長からの祝辞に対して子どもたちは「ありがとうございます！」とさっそく大きな声で返事をしていました。入学式後は、それぞれの教室で担任の先生から話を聞き、これから学校生活への期待に胸を弾ませている様子でした。



①校庭の桜の前で記念撮影②真剣に話を聞きます③担任の先生と退場
④教室で元気に挙手⑤学校のきまりを保護者と一緒に確認

健康に過ごすために

健康寿命の延伸等に関する包括的連携協定

市民の健康寿命の延伸と医療費の適正化を目的に、市と日医工株式会社が3月26日(木)に協定を締結しました。同社と自治体との協定は県内初。締結式で栗市長は「高齢になっても健康で活躍できることが重要」と話し、日医工株式会社代表取締役社長の田村友一氏は「健康寿命を伸ばすことで平均寿命日本一に向かいた手助けをしたい」と答えました。今後は同社の意見を活かし、イベントでのジェネリック医薬品普及や感染症の予防法啓発などで連携していきます。



協定締結に伴い、手指消毒用ジェル千本が市に寄贈されました。



パネル展では交流のあゆみを当時の広報紙で振り返りました。